【資料】

入学後の成功と資質・能力自己評価にみる入試の評価

―山口大学入学者追跡調査データ分析より―

林寛子（山口大学）

山口大学では，入学者の追跡調査を入試に始まり，入学時の意識，在学中の学業成績や生活態度，卒業時の意識に至るまで，入学者が大学で成長していく実態を一貫して把握する手法で実施している。現在，平成 21 年度入学者の入学から卒業までのデータが整い，分析可能となった。本報告は，このデータを用いて，入学後の成功を GPA が高いこと，就職・進路を決定して大学を卒業することとみなし，入学後の成功を規定する入学時の意識を分析するとともに，山口大学の入学区分別に，特にセンター試験を課さない特別選抜の実態を評価するものである。

1 はじめに

山口大学では 2009（平成 21）年度から入学者追跡調査の一環として，入学時と卒業時に学籍番号の記入を求めた全学生対象のアンケート調査を行っている。アンケート調査に学籍番号を求めるのは，入学時と卒業時の実態や意識をただ把握するだけでなく，入試成績，在学中の学業成績等とも結び付けて分析するためである。

意識と入試成績，学業成績を結び付けて分析するのは，合格者が山口大学のアドミッション・ポリシーに適合し，入学後，大学教育に適応して卒業時の進路決定の面においても成果を出し，社会が求める人材になりうる者を入試において一人でも多く選ぶことが重要であると考えるからである。

大学入学後に成功する人材を選ぶためには，入学後の成功を規定する要因を明らかにしなければならない。そこで，入学時と卒業時のアンケート調査において，社会が求める資質・能力に着目し，大学教育の中で入学者がどのように成長したのかを把握できるよう，大学の人材育成の視点から調査を設計した。入学時と卒業時のアンケート調査を学籍番号を求めて実施してきたのは，社会が求める人材育成を視野に入れた大学教育の在り方と入学者選抜のあり方を検討するためである。

2009（平成 21）年度から開始した入学者追跡は，平成 21 年入学者が平成 25 年 3 月に卒業したことにより，1 学年分のデータが整った。入学から卒業までの入試データ，大学における学業成績データと入学時調査，卒業時調査のデータを学籍番号で結びつけて分析することが可能になった。

2009（平成 21）年以降，これまでデータ蓄積段階のデータを用いて予備分析を行ってきた。予備分析では，細かな募集単位別ではなく大学全体，あるいは学部別で分析を行ってきた。これらの分析では，①入学区分別に大学入学後の学業成績に有意な差はみられないこと，②卒業時の大学に対する満足度や資質・能力の自己評価の高さは，大学在学中の授業以外での「諸活動」が一つの要因になっていること，③大学教育が最大の効果をもたらすためには，初年度教育及び 1 年次のサポートが重要であり，大学入試では，大学で諸活動に参加してネットワークを広げ，地道な努力ができる学生を獲得することが必要であることなど（林，2011，2012，2013）を明らかにしてきた。

データが完成したことから，本分析として

入学者追跡調査データを募集単位ごとに細かく分析することが重要と考え，現在，募集単位ごとの分析を行い，報告書をまとめたところである[注1)]。細かい分析で，公表できるデータの扱いではないため結果を簡単に紹介すると，多くの募集単位が全体の結果と同様であったが，一部の募集単位，特に理系において，推薦入試 I や AO 入試というセンター試験を課さない入試の学生の成績が悪く，留年しているという入学区分による入学後の成功の違いがみられた。

推薦入試 I や AO 入試は，「大学での学びに苦労する」，「学力が低い」というように，高等教育において学力低下を助長する入試のように扱われている。さらに，これらの入試で入学した者の卒業後の平均所得が低い（浦坂ほか，2013）といった指摘もある。このような指摘の中で，推薦入試や AO 入試の特別選抜を一般入試に回帰する大学の動きもみられる。実際，山口大学においても推薦入試の定員を後期日程に移す動きが一部の募集単位でみられる。

山口大学は，社会的に低く評価される可能性のある特別選抜の学生を受け入れることが好ましいのか，それとも一般入試に回帰したほうが良いのか。特に，センター試験を課さない推薦入試 I，AO 入試を続けるのであれば，入学した学生が不利益を被らないように改善し，有効な入試の手段として仕組みを整えていかなければならないであろう。

そこで，本報告においては，山口大学全体の入試改善の方向性を見出すために大学全体で分析をし，センター試験を課す入試とセンター試験を課さない入試の評価を行う。

2 入学者追跡データの概要と分析対象者

2.1 分析対象者

分析対象者は，平成 21（2009）年度入学者全員である。ただし，医学科と獣医学科は 6 年制のため，入学者の入学から卒業までのデータ蓄積が完成していないため本分析の対象からは除く。また，平成 25 年 3 月に卒業できなかった学生については，未だデータ蓄積段階の学生となる。

平成 21 年入学者は 1,981 人であった。医学科，獣医学科を除く分析対象入学者は 1,853 人，そして，平成 24 年度（平成 25 年 3 月）に卒業したのは 1,510 人である。入学者と分析対象入学者，及び卒業者の入学区分別人数は表 1 のとおりである。分析においては，社会人，帰国生徒，外国人留学生等はその他とする。

なお，卒業率[注2)]を示しておく。大学全体では 81.5%で，入学区分によって卒業率の違いが生じている。AO 入試の卒業率が低くなっている。ただし，この結果は，学部別に分析したところ，一部の学部に見られる偏りであった。

2.2 追跡データと入学時・卒業時調査の概要

平成 21 年度入学者追跡データとして，以下のデータが学籍番号および受験番号で結びつけられている。なお，データは 2013（H25）年 7 月 1 日現在のものである。

- 入試データ
- 入学時調査（アンケート調査）
- 学籍データ
- GPA
- TOEIC スコア
  （データは学生の申請に基づくものであり，最高スコアを更新しても申請していない場合がある）
- 卒業時調査（アンケート調査）

表 1　大学全体の入学時・卒業時の入学区分別人数と卒業率

	前期日程	後期日程	推薦入試 I	推薦入試 II	AO 入試	その他	合計
入学者	1318	297	137	95	127	7	1981
分析対象入学者	1241	275	137	69	127	4	1853
卒業者	998	227	121	64	96	4	1510
卒業率	80.4	82.5	88.3	92.8	75.6	100.0	81.5

入学時調査は平成 21 年から学籍番号記入式のアンケート調査となった。調査期間は，平成 21（2009）年 4 月 3 日から 5 月 30 日，調査方法は悉皆調査である。学部オリエンテーション，学科・コース単位で全員が揃う授業，または学部オリエンテーションで実施した。調査項目としては，進学動機について，受験校決定について，資質・能力の自己評価，大学説明会などの参加状況について設けている。

卒業時調査も学籍番号記名式である。調査は，卒業予定者全員を調査対象として実施している。平成 21（2009）年入学者で，留年者は調査対象外となっている。調査期間は平成 24（2012）年 12 月から平成 25（2013）年 3 月，調査方法は悉皆調査である。各学部学科において配付，回答，回収をお願いしている。調査項目としては，大学生活に対する満足度，資質・能力の自己評価，大学生活における諸活動，進路・就職状況を設けている。

3 入学後の成功を規定する要因

3.1 学業成績と卒業後の進路

入学後の成功を学業成績が高く，進路を決定して大学を卒業した者とし，在学中の GPA[注3)]，卒業後の進路について確認する。

まず，分析対象入学者についてセンター試験を課す入学区分とセンター試験を課さない入学区分別の 1 年時 GPA の平均値を見る（表 2）。1 年時の GPA を見るのは，予備分析において 1 年時の GPA が高ければ在学中全体の GPA も高い傾向にあることが明らかになっているからである。1 年時の GPA 平均値は，センター試験を課さない入学区分の入学者は，センター試験を課す入学区分の入学者よりも GPA 平均値が高い傾向にある。

次に，分析対象者の 2013 年 7 月 1 日現在の在籍中の全体 GPA 平均値を見る（表 3）。在籍中全体で分析すると退学者や休学者が含まれる。在籍中全体 GPA についてもセンター試験を課さない入学区分の GPA 平均値が高い。

そして，卒業者について 4 年間全体の GPA 平均値を見る（表 4）。分析の結果は，センター試験を課す入学区分とセンター試験を課さない入学区分の卒業生の間に有意な差は見られなかった。

表 2　入学区分別 1 年時の GPA 平均値

	度数	平均	F	有意確率
センター試験を課す	1579	2.4824	16.906	.000
センター試験を課さない	264	2.6591		
合計	1843	2.5077		

※センターを課す入試に 6 人，1 年時の前期，後期のいずれか，または前期，後期ともに履修登録をしていない。

表 3　入学区分別在籍中全体の GPA 平均値

	度数	平均	F	有意確率
センター試験を課す	1581	2.3255	4.100	.043
センター試験を課さない	264	2.4194		
合計	1845	2.3389		

※センターを課す入試に 4 人，4 年時に一度も履修登録をしていない。

表 4　入学区分別卒業者の 4 年間全体 GPA 平均値

	度数	平均	F	有意確率
センター試験を課す	1289	2.5341	2.333	.127
センター試験を課さない	217	2.5915		
合計	1506	2.5423		

続いて，入学区分別に卒業後の進路について見る（図 1）。センター試験を課さない入学区分はセンター試験を課す入学区分よりも大学院進学の割合が低い。これに対して，就職の割合は高くなっている。

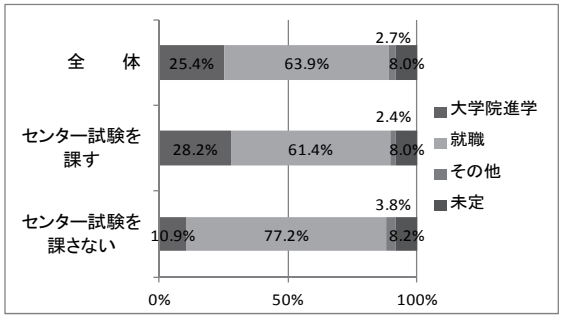

図 1　入学区分別大学卒業後の進路

X^2=25.439 df=3 p=0.000

山口大学全体で分析した場合，センター試験を課さない入学区分は，GPA が低いとは言えない。また，大学卒業後の進路も未定で卒業しているわけではない。センター試験を課さない入試は，高等教育において学力低下を

助長する入試のように否定的に扱われているが，山口大学の平成21年度入学者においてはこれを否定するものとなっている。

さらに，センター試験を課さない入学区分で入学した者の卒業後の平均所得が低いという指摘についてだが，センター試験を課さない入学区分がセンター試験を課す入学区分の入学者よりも大学院へ進学する者が少ないことを考えると，センター試験を課さない入学区分の者が学歴の違いによって所得が低くなることは予想される。センター試験を課さない入学区分で入学した学生の卒業後の所得が低い理由を入試の在り方に求め，センター試験を課さない入学区分が否定的に扱われることは問題と考える。

3.2 入学区分別にみる入学時と卒業時の特徴

続いて，大学の人材育成の視点からアンケート調査を実施している入学時調査と卒業時調査の資質・能力自己評価24項目について，入学時と卒業時の特徴を明らかにする。

まず，卒業者で入学時調査データがある学生の入学時における資質・能力自己評価についての入学区分別特徴についてみる。

資質・能力自己評価項目24項目[注4)]は，4「当てはまる」，3「ある程度当てはまる」，2「あまり当てはまらない」，1「あてはまらない」と得点化し，入学区分別に一元配置分散分析を行い，平均値の比較を行った。

分析の結果（表5），センター試験を課さない入学区分がセンター試験を課す入学区分よりも有意な差を示して資質・能力自己評価が高いという項目が複数見られた。

次に，卒業者で卒業時調査データがある学生の卒業時における資質・能力自己評価についての入学区分別特徴について見る。入学時調査の資質・能力自己評価項目と同様に得点化し，入学区分別に一元配置分散分析を行い，平均値の比較を行った（表5）。

分析の結果，センター試験を課さない入学区分の資質・能力自己評価得点平均は入学時調査ほどではないが，卒業時においても評価が高い項目が多く見られる。なお，卒業時においては，「物事を筋道立てて論理的に考察することができる」という論理的思考能力については，センター試験を課す入学区分の卒業生の評価が高い結果となった。

表5　入学区分別にみる卒業者の入学時と卒業時の資質・能力自己評価

		入学時				卒業時			
		度数	平均	F	有意確率	度数	平均	F	有意確率
(1)社会生活を営む上で求められるマナーが身についている	センター試験を課す	1222	2.93	9.386	.002	986	2.97	1.091	.297
	センター試験を課さない	210	3.06			184	3.02		
	合計	1432	2.95			1170	2.98		
(2)社会問題への関心が高く、幅広い知識・教養を身につけている	センター試験を課す	1221	2.53	8.337	.004	981	2.65	.274	.601
	センター試験を課さない	210	2.67			183	2.68		
	合計	1431	2.55			1164	2.66		
(3)自分の考えを他人にわかりやすく話すことができる	センター試験を課す	1223	2.36	24.373	.000	981	2.64	9.225	.002
	センター試験を課さない	210	2.62			182	2.82		
	合計	1433	2.40			1163	2.67		
(4)自分の考えを文章を用いて的確に表現することができる	センター試験を課す	1223	2.30	9.866	.002	983	2.64	2.152	.143
	センター試験を課さない	210	2.47			184	2.72		
	合計	1433	2.33			1167	2.65		
(5)自分の考えや論理を他人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる	センター試験を課す	1220	2.10	34.231	.000	985	2.59	4.822	.028
	センター試験を課さない	208	2.39			184	2.72		
	合計	1428	2.15			1169	2.61		
(6)他人の発言や発表内容を素早く的確に理解することができる	センター試験を課す	1223	2.74	0.109	.741	984	2.79	1.840	.175
	センター試験を課さない	210	2.75			184	2.86		
	合計	1433	2.74			1168	2.80		
(7)物事を筋道立てて論理的に考察することができる	センター試験を課す	1221	2.66	0.010	.921	986	2.82	5.397	.020
	センター試験を課さない	210	2.67			183	2.69		
	合計	1431	2.66			1169	2.80		
(8)細かいことにとらわれず、的確に全体的な判断を下すことができる	センター試験を課す	1222	2.61	0.298	.585	986	2.71	3.210	.073
	センター試験を課さない	209	2.58			184	2.81		
	合計	1431	2.61			1170	2.72		
(9)成果をあせらずに、地道な努力を積み重ねることができる	センター試験を課す	1223	2.78	11.978	.001	986	2.90	8.116	.004
	センター試験を課さない	210	2.96			184	3.08		
	合計	1433	2.80			1170	2.93		
(10)周囲の雑音を気にせずに、研究や仕事に長時間取り組むことができる	センター試験を課す	1223	2.72	3.436	.064	985	2.75	2.076	.150
	センター試験を課さない	210	2.83			184	2.85		
	合計	1433	2.74			1169	2.77		

(11)困難に直面したとき、冷静に打開策を見出すことができる	センター試験を課す	1214	2.68	4.682	.031	984	2.75	.697	.404
	センター試験を課さない	209	2.78			184	2.79		
	合計	1423	2.70			1168	2.76		
(12)不明なこと、理解できないことは納得できるまで追求する	センター試験を課す	1216	3.01	2.665	.103	982	2.88	.394	.530
	センター試験を課さない	209	3.09			184	2.84		
	合計	1425	3.02			1166	2.87		
(13)既存の概念にとらわれず、新しいものを生み出そうとする意識が高い	センター試験を課す	1216	2.60	5.119	.024	983	2.60	.345	.557
	センター試験を課さない	209	2.72			184	2.56		
	合計	1425	2.62			1167	2.59		
(14)何事にもチャレンジ精神が旺盛である	センター試験を課す	1214	2.82	30.771	.000	986	2.84	7.965	.005
	センター試験を課さない	208	3.13			184	3.02		
	合計	1422	2.87			1170	2.87		
(15)自分の欠点を自覚し、常に改善の努力を続けている	センター試験を課す	1215	2.84	13.300	.000	986	2.91	.079	.779
	センター試験を課さない	209	3.02			184	2.93		
	合計	1424	2.87			1170	2.92		
(16)他人と協力しながら研究や作業を進めることができる	センター試験を課す	1216	3.08	12.162	.001	983	3.11	2.521	.113
	センター試験を課さない	209	3.25			183	3.21		
	合計	1425	3.11			1166	3.13		
(17)周囲の意見や風評に流されることなく、善悪の判断ができる	センター試験を課す	1216	2.91	3.001	.083	984	2.98	.768	.381
	センター試験を課さない	209	3.00			184	3.03		
	合計	1425	2.92			1168	2.99		
(18)交友関係が豊かである	センター試験を課す	1216	2.71	24.468	.000	985	2.89	17.362	.000
	センター試験を課さない	209	3.00			184	3.15		
	合計	1425	2.75			1169	2.93		
(19)指示されなくても、自分で判断して行動ができる	センター試験を課す	1216	2.65	19.644	.000	984	2.91	7.141	.008
	センター試験を課さない	208	2.87			183	3.05		
	合計	1424	2.68			1167	2.93		
(20)新しい機器類の操作を学んだり、率先して新しい技術を覚え、必要に応じた活用が十分できる	センター試験を課す	1215	2.64	1.742	.187	982	2.68	.626	.429
	センター試験を課さない	208	2.71			184	2.73		
	合計	1423	2.65			1166	2.69		
(21)必要とする情報や未知の知識を得るための手段や方法をよく知っている	センター試験を課す	1214	2.48	1.923	.166	984	2.75	.116	.733
	センター試験を課さない	208	2.55			184	2.73		
	合計	1422	2.49			1168	2.74		
(22)他人の意見・行動に根拠ある批判ができる	センター試験を課す	1208	2.56	.179	.672	984	2.77	.451	.502
	センター試験を課さない	208	2.58			184	2.73		
	合計	1416	2.56			1168	2.77		
(23)与えられた前提、条件から結論を推論することができる	センター試験を課す	1210	2.61	.122	.727	985	2.78	.277	.599
	センター試験を課さない	209	2.62			184	2.76		
	合計	1419	2.61			1169	2.78		
(24)リーダーになって集団をまとめることができる	センター試験を課す	1215	2.16	31.229	.000	983	2.48	15.924	.000
	センター試験を課さない	209	2.48			184	2.74		
	合計	1424	2.21			1167	2.52		

※センター試験を課さない入学区分の資質・能力自己評価得点平均が高い部分に網かけをしている。

以上，入学区分別にみる資質・能力の自己評価の入学時，卒業時の分析から，センター試験を課さない入学区分がセンター試験を課す入学区分よりも自己評価が入学時も卒業時も高いということが特徴としてあげられる。

3.3 入学後の成功を規定する要因

センター試験を課さない入学区分の入学者の資質・能力の自己評価は高いものの，大学入学後 GPA や大学卒業後の進路決定において，センター試験を課さない入学区分の入学者がセンター試験を課す入学区分の入学者よりも劣ることはない。

では，入学後の成功を規定する要因が,センター試験を課す・課さないといった入学区分によるものでなければ，成功を規定する要因は何なのだろうか。入学時の意識に入学後の成功をもたらす要因を見出すことが可能であれば，面接等の評価の観点になりうる。

そこで，入学時の資質・能力自己評価を手がかりとして,GPA, 卒業後の進路決定に対する資質・能力自己評価との相関を見ることにする。1 年時の GPA，在籍中全体の GPA，卒業後の進路決定について，相関分析を行った（表 6)。

相関分析の結果，在籍中全体 GPA と 1 年時 GPA のように高い学業成績をおさめるためには，「(9)成果をあせらずに，地道な努力を積み重ねることができる」，「(15)自分の欠点を自覚し，常に改善の努力を続けている」において有意な相関がみられる。これらの資質・能力が重要なことは間違いないが，相関係数の値はそれほど高くない。卒業後の進路決定については，入学時の資質・能力自己評価に顕著な関連は見られなかった。

表 6　卒業者の GPA,卒業後の進路決定,
入学時の資質・能力自己評価の相関

	在籍中全体 GPA	1 年時 GPA	卒業後の進路決定
在籍中全体 GPA	1	.852**	.059*
1 年時 GPA	.852**	1	.034
卒業後の進路決定	.059*	.034	1
(1)社会生活を営む上で求められるマナーが身についている	.015	.029	.009
(2)社会問題への関心が高く，幅広い知識・教養を身につけている	.064*	.070**	.001
(3)自分の考えを他人にわかりやすく話すことができる	.005	.003	.037
(4)自分の考えを文章を用いて的確に表現することができる	.057*	.034	-.028
(5)自分の考えや論理を他人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる	.028	.022	.017
(6)他人の発言や発表内容を素早く的確に理解することができる	.030	.030	-.028
(7)物事を筋道立てて論理的に考察することができる	.012	-.009	.013
(8)細かいことにとらわれず，的確に全体的な判断を下すことができる	-.036	-.032	.002
(9)成果をあせらずに，地道な努力を積み重ねることができる	.125**	.142**	-.013
(10)周囲の雑音を気にせずに，研究や仕事に長時間取り組むことができる	.030	.040	-.075*
(11)困難に直面したとき，冷静に打開策を見出すことができる	.018	.057*	-.012
(12)不明なこと，理解できないことは納得できるまで追求する	.054*	.054*	-.028
(13)既存の概念にとらわれず，新しいものを生み出そうとする意識が高い	-.002	-.012	-.024
(14)何事にもチャレンジ精神が旺盛である	-.017	-.023	-.009
(15)自分の欠点を自覚し，常に改善の努力を続けている	.104**	.108**	-.028
(16)他人と協力しながら研究や作業を進めることができる	.053*	.081**	.014
(17)周囲の意見や風評に流されることなく，善悪の判断ができる	.058*	.065*	-.045
(18)交友関係が豊かである	.000	.026	.053
(19)指示されなくても，自分で判断して行動ができる	.005	.027	-.010
(20)新しい機器類の操作を学んだり，率先して新しい技術を覚え，必要に応じた活用が十分できる	.000	.006	.012
(21)必要とする情報や未知の知識を得るための手段や方法をよく知っている	.012	.001	-.020
(22)他人の意見・行動に根拠ある批判ができる	-.032	-.045	-.048
(23)与えられた前提，条件から結論を推論することができる	.008	-.032	.020
(24)リーダーになって集団をまとめることができる	.008	.016	-.023

※分析に用いた変数の卒業後の進路決定は，決定者 1，未定者 0 としたものである。

4 まとめ

大学入学後の成功を規定する要因として，入学時の資質・能力自己評価からは重要となる資質・能力を見出すことはできなかった。大学入学後に成功をおさめると思われる入学者を入試において選抜する評価方法を検討することは非常に難しい。

しかし、山口大学におけるセンター試験を課さない入学区分の入学者の実態は，否定的な社会的評価のとおりではないことは明らかである。社会的評価の風潮の中で，山口大学の入試を一般入試に回帰する流れを検討することは安易すぎるであろう。

山口大学は，センター試験を課さない入学区分が，どのような学生を受け入れ，大学教育に，そして社会が求める人材育成にいかなる影響を与えているのか，より詳細に分析し，説明していくことが求められていると考える。センター試験を課さない入学区分についても，より具体的に大学入試の評価基準等を志願者に示すことができるように，入試の改善していかなければならない。

注

注 1）報告書は，2014 年 7 月発行。

注 2）卒業率＝卒業者/分析対象入学者×100

注 3）山口大学では，平成 17 年 4 月入学者から GPA＝Σ（Units×Grade Points）／Σ（Units）で算出している。
（※Grade Points＝秀 4 点，優 3 点，良 2 点，可 1 点，不可 0 点，履修放棄 0 点,Units＝単位数）

参考文献

林寛子（2011）.「新たな入学者追跡調査における選抜方法評価」『大学入試研究ジャーナル』,No.21,159-164.

林寛子（2012）.「入学区分別にみる学業成績と生活態度と卒業時の意識」『大学入試研究ジャーナル』,No.22,79-84.

林寛子（2013）.「大学入学時と卒業時における学生の『質』と選抜方法の評価」『大学入試研究ジャーナル』,No.23,79-84.

浦坂純子・西村和雄・平田純一・八木匡（2013）.「大学入試制度の多様化に関する比較分析―労働市場における評価―」独立行政法人経済産業研究所 RIETI Discussion Paper Series　2013 年 3 月＜http://www.rieti.go.jp/jp/publications/summary/13030024.html＞（2013 年 12 月 1 日）